

令和7年度 調布市立第一小学校 学校評価報告書（学校長 樋川 宣登志）

学校の教育目標	
○よく考え、自分から進んでやりぬく ○思いやりの心もち、なかよく協力する ○しょうぶなからだで明るい生活をする	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「子どもたち一人ひとりを大切にする学校」	

**調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>**  
 (\* 数値はアンケートでの肯定的評価。保=保護者, 児=児童。)

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①読書旬間、文化文芸的活動(外国人との活動、和楽器体験、パラスポーツとの活動など)を充実させた。	①授業観察 100回、校内研修 10回等を通して授業スタイルを整え学習効果を高めた。全国学力調査では、算数で国の平均を10%以上上回るなど、全ての教科で国-都-市の平均を上回った。	①野球・陸上・なわとび等アスリートからの指導により、児童の運動への関心を高めた。「ちょこブラ1」を推進し、習慣化を図った。
	②7クラス、特支学校、アメリカS交流等交流活動を通し、互いのよさを認め合う心情を育てた。	②校内研究「表現を豊かにする言語活動の工夫」を通して、児童の表現力を高める授業を推進した。研究授業4回実施。	②養護教諭やゲストティーチャーによる保健授業(二次性徴、薬物乱用防止、性教育等)などを通して、体や健康への関心を高めた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①「文化文芸・読書の推進」 (保)91.6% (児)95.2%	①「学習内容の理解」 (保)93.3% (児)92.7%	①「すすんで運動する」 (保)74.9% (児)82.8%
②「友達との認め合い、協力」 (保)94.6% (児)95.9%	②「自主性・表現力」 (保)82.6% (児)79.6%	②「健やかな体を作る取組」 (保)94.4% (児)94.2%	
協議会評価	学校運営 ○学校の取組は高く評価されている。しかし、読書離れは社会の大きな流れであり、読書活動を推進するためには、様々なアプローチが必要である(デジタル文庫の導入、ピブリアバトル、図鑑やゲームなどから広げるetc.)。	学校運営 ○学力の状況は良好である。 ただし、授業参観や保護者アンケートからうかがえるように、じっくりと考えを進める力について、今後授業を工夫して欲しい。	学校運営 ○様々な取組をしていて、よい。 教師がモデルとなって運動の楽しさを伝えることができるとうい。

**学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>**

	4 安全・安心な学校生活の確立	5 個性の尊重と伸長	6 保護者・地域の教育力の活用
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①学年指導体制、アサート等により多面的に児童の状況を把握した。対策委員会により組織的に対応・支援を行うことができた。	①習熟度別指導やTT指導、スクールパートナーやアサートティーチャーによる支援、特支教室専門員やSCによるケアなど、個に応じた様々な支援を実施できた。	①コミュニティスクール初年度にあたり、委員による学校参観や地域人材開発を行い、教育活動の充実に向けた検討を進めることができた。
	②教育活動や施設の不断の点検、アレルギー対応のルール徹底などにより、重大な事故を防ぐことができた。	②校内委、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関の活用により、支援を必要とする児童・保護者への支援を細やかに行えた。	②PTA・地域と連携すべく、情報交換・共有を細かく図った。PTA・地域行事への教職員の積極的な参加・協力ができた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①「トラブル対応・いじめ対応」 (保)80.5% (児)92.7%	①「習熟度別指導・TT指導」 (保)92.5% (児)95.2%	①「学校の情報発信」 (保)94.2%
②アレルギー事故0件 重大な交通事故0件	②「相談への対応」 (保)94.4% (児)91.4%	②「地域教材・人材の活用」 (保)87.9% (児)93.0%	
協議会評価	学校運営 ○大きな事件・事故がなく、十分だと感じられる。 A評価でもよい。	学校運営 ○様々な形態で個に応じた指導を実現している。	学校運営 ○教職員が、積極的に地域行事に参加して素晴らしい。A評価が妥当だろう。 ○「すぐる」を活用し、地域の方へもっと情報発信していくとよい。

**人材育成・組織運営**

自己評価	◇管理職面接による教職員の目標の設定と具体化、校長と各リーダーとの確認等を通して、ミドルリーダーの育成を進めた。運営面での立案や若手指導に力を発揮するメンバーが育ちつつある。 ◇教職員の状況に応じられるよう、柔軟な勤務スタイルを実施した会議・業務の整理削減やペーパーレス化を進めることができた。
協議会評価	○今年度、CSメンバーと教員グループ(若手・中堅)で懇談を行った。一人で悩まずにいられるチームワークや、職員集団の和を感じた。職場の環境がよい。 ○メンタルによる休職者がいないことから、組織運営のよさがわかる。

**中期的な経営目標の達成状況**

- 1 文化文芸的な活動、体験活動に十分に取り組み、児童の心を育てることをすすめられている。読書に対する児童の関心を高める活動に引き続き取り組む。
- 2 学力の定着は、よい状況である。児童の主体性や表現力について、授業改善を進める。
- 3 健康保持・体力増進のための取組は充実できたが、児童の体力向上や運動への意欲喚起に直結したとはいえない。引き続きの課題とする。
- 4 安全・安心な学校生活を確立することは、概ね達成できている。
- 5 個別の支援に取り組み、児童や保護者の困り感に添えてきている。不登校対応について、さらに個に応じた支援を計画していく。
- 6 地域の教育力を活用した教育活動や安全確保は、概ね達成できている。CSとしての特色や方向性を明らかにしていく必要がある。

**次年度の重点課題**

【不登校児童への支援】	◇不登校状況の児童への支援の充実。	◇登校が難しくなりつつある児童の困難さへの対応。
【体力・運動能力の向上】	◇体育科授業の充実。	◇体力・運動への関心を高める取組の展開。
【読書好きを増やす取組】	◇読書旬間等の取組の強化。	◇児童・保護者への啓発活動。
【CSの個性を発揮する取組】		